

【今日の説教から】

「からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うため…もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶあなたがたはキリストのからだであり、ひとりひとりはその肢体である」

キリストをかしらとする、全世界の歴史的で有機的な体としての集合体は、いかに大きいものなのでしょうか。

体にはおびただしい細胞があり、ありとあらゆる組織や器官があって一つの体が形成されているように、キリストにつながれて、キリストの命によって生かされている聖徒たちの作り上げる身体はどのように素晴らしいものでしょうか。そしてどのように素晴らしい励まし合いと助け合いとの中に私たちの命が育まれているかを知ります。

天に帰られ、今私たちが会うことの出来ない、信仰にある方々も、イエス様の体として今、私たちとつながっています。

皆同じ体の一部分として分裂がなく、互いにいたわり合い、愛し合い、気遣いをし合って生きていくすばらしさを教わります。誰が上でだれが下ではなくて、目立たない、小さく見える部分こそが尊ばれ、目立つ部分も慎みを持ち、調和とハーモニーがあり、苦しみも喜びも分かち合い、いたわり合う家族。一つキリストの身体があり、わたくしたちはそのキリストの身体の一部分として分かち合う切っても切れない部分として迎え入れられている喜びを思います。

皆様おはようございます。

ずっと雨が降りませんでしたが、そうかと思うとゲリラ的に度を超えて降り出すという状況です。いつ警報級の雨が降り出すか分かりませんが、皆様どうぞお気を付け下さい。

さて今日は庄原教会では年に一度の召天者記念礼拝の時を持っております。ご遺族の皆様方のご出席をありがとうございます。

そんな中、今日は聖書から、イエス様によって救われて導かれる一人一人は一心同体、兄弟姉妹や家族という以上に組み合わされて一体の身体を形成しているというお話をご紹介したいと思います。

12:12 からだが一つであっても肢体は多くあり、また、からだのすべての肢体が多くあっても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である。

12:13 なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシャ人も、奴隸も自由人も、一つの御靈によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御靈を飲んだからである。

12:14 実際、からだは一つの肢体だけではなく、多くのものからできている。

私たちはそれぞれに体を持っています。体には多くの部分があります。骨があり、肉があり、皮膚があり、毛髪があり、臓器があります。骨にもあらゆる骨があり、肉があり、血管があり、神経があり、筋肉があります。臓器と言ってももうもうの臓器があります。実に精巧に出来たこの身体です。あちらが痛い、こちらが痛いと腰をさすったり、腕をさすったりしますが、その時に手のひらは、痛むところにやさしく添えられ、その手のひらの体温で、痛むところをさすり、回復するようにと手のひらは仕えるのです。

心臓の筋肉は、私たちが眠っていて何も物事を考えていない間にも休むことなく動いています。肺も、内臓も、常に休むことはありません。皆一つとなって、協力して、仕え合い、一つの体を成り立たせています。命を共有して、一つの目的のために、体を維持しながら日々を過ごしています。

病気になったりすると、健康のありがたみが良く分かります。しかしその健康のためにどれだけ日夜体の各部分は働いていることでしょうか。一つ一つの部分は体のために仕え、体は一つ一つの部分を大切に守ります。よく言われます、「ワンフォーオール、オールフォーワン」という言葉を思い出します。これは、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉です。

12:15 もし足が、わたしは手ではないから、からだに属していないと言っても、それで、からだに属さないわけではない。

12:16 また、もし耳が、わたしは目ではないから、からだに属していないと言っても、それで、からだに属さないわけではない。

12:17 もしからだ全体が目だとすれば、どこで聞くのか。もし、からだ全体が耳だとすれば、どこでかぐのか。

12:18 そこで神は御旨のままに、肢体をそれぞれ、からだに備えられたのである。

12:19 もし、すべてのものが一つの肢体なら、どこにからだがあるのか。

12:20 ところが実際、肢体は多くあるが、からだは一つなのである。

12:21 目は手にむかって、「おまえはいらない」とは言えず、また頭は足にむかって、「おまえはいらない」とも言えない。

そんな精巧な、体の各器官なのですが、これが人間の集まりとなると、おかしなことが生じるという事が語られます。それは、「おまえはいらない」という考え方です。いじめの論理ともいいうものでしょうか。

私たちは時に違いを乗り越えることが出来なくなるようです。自分と考え方の波長が合う人、理解に難しくない人、話していて楽しい人を重んじて、理解しがたい人、一緒にいて楽

しくない人、息の合わない人、馬の合わない人を排除しようとすることがあります。似た人たちばかりが集まり、異質のものを排除するという論理は、体のつくりで言えば、目は手にむかって、「おまえはいらない」とは言ったり、また頭は足にむかって、「おまえはいらない」と言ったりすることに等しく、もしもそんなことが実行されれば体は立ち行かないのに、そんな当たり前のことも忘れて、人はそれぞれの尺度で人の優劣を決めたり、選別を行ったり、無視したり、見捨てたりしているのです。足がどんなに優れても、それが手であったり目であったりしても、それではその優れた部分だけで一つの体にはなり得ないです。

12:22 そうではなく、むしろ、からだのうちで他よりも弱く見える肢体が、かえって必要なのであります。

12:23 からだのうちで、他よりも見劣りがすると思えるところに、ものを着せていっそう見よくする。麗しくない部分はいっそう麗しくするが、

12:24 麗しい部分はそうする必要がない。神は劣っている部分をいっそう見よくして、からだに調和をお与えになったのである。

12:25 それは、からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。

そうではない、そうではないのです。むしろ、です。

12:22 そうではなく、むしろ、からだのうちで他よりも弱く見える肢体が、かえって必要なのであります。

12:23 からだのうちで、他よりも見劣りがすると思えるところに、ものを着せていっそう見よくする。麗しくない部分はいっそう麗しくするが、

12:24 麗しい部分はそうする必要がない。神は劣っている部分をいっそう見よくして、からだに調和をお与えになったのである。

12:25 それは、からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。

一つ身体が分裂しては、体はどうなってしまうのでしょうか。服がびりびりに引き裂かれたら、どうやって服の役割を果たすことが出来るでしょうか。

むしろ、一緒になって、お互いに、いたわり合い、心配し合い、注意を払い、気に掛け合って、守り合っていくのです。

12:26 もし一つの肢体が悩みば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。

12:27 あなたがたはキリストのからだであり、ひとりひとりはその肢体である。

これがキリストの身体である教会の姿です。そして教会とは、今私たちがいるこの場所をのみ意味するものではありません。教会は世界にたくさんあり、そして過去、現在、未来に数多く存在するのです。そのすべてが、キリストの身体なのです。この成長した、大きな大きなキリストの身体の中に、私たちも招き入れられています。そして一つの体の、なくてはならない独自の一部分として、キリストに仕え、体に仕え、キリストと体は、全教会は、私たち一人一人に仕えるのです。そしてともに苦しみを分かち合い、共に喜びを分かち合うのです。

地上にあっても天にあってもこのことは同じです。このような有機的な、神様の命の中に接ぎ木され、命が日々注がれ、成長があり、実りがあります。助け合い、いたわり合い、心配し合い、仕え合い、苦しみも喜びも共にしながら、共に成長するのです。これがキリストの身体であり、教会です。この世の中も、そのようであればいいのにと切に思います。分裂と優劣、軽蔑と排除。軽視と略奪。そして排斥。無視、蹂躪。この痛み切った世界に、神様の体のような交わりが再形成されるように、教会にお一人お一人が避難され、休み場を得ていただけたらと、切に願い祈るのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。美しい、キリストをかしらとするキリストの身体の秩序とあり方をお教えくださいまして、本当にありがとうございます。世界がこのように一つ身体、一つ家族のようであればどんなにいいかと思います。私たちが、キリストの身体としてキリストの身体である教会の素晴らしいを証しすることが出来るように、今週も強めて助け導いてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン